



# TAIHEIYO CEMENT NEWS LETTER

2020年3月30日

## 2050年を展望した温室効果ガス排出削減に係る 長期ビジョンの具体的な施策を策定

太平洋セメント株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：不死原正文 以下、当社）は、この度、2050年を展望し、温室効果ガス排出80%削減を目指した長期ビジョンの具体的な施策を策定いたしました。

当社は、2019年7月に「2050年を展望した温室効果ガス排出削減に係る長期ビジョンの骨子」を公表しましたが、この度、長期ビジョンの具体的な施策を策定いたしました。詳細につきましては別添資料の通りです。

なお、本長期ビジョンは「セメント生産におけるネットCO<sub>2</sub>排出原単位の削減」と「セメント及びセメント関連製品のバリューチェーン全体を通じた様々なCO<sub>2</sub>削減への貢献」で構成されております。

2050年におけるCO<sub>2</sub>排出80%削減という長期的なゴールの実現に向けては、現在の技術の応用や発展に加えて、革新的な技術が求められます。また、社会受容性、経済的負担の在り方など技術以外の課題の解決も必要となりますが、当社の長期的な成長及び社会システムの大幅な変革を見据え、本長期ビジョンを当社グループが到達すべきゴールとして位置付け、取り組みを進めてまいります。

<本件に関する問合せ先>

太平洋セメント株式会社

総務部 I R 広報グループ

TEL. 03-5531-7334

FAX. 03-5531-7551

**【長期ビジョンの概要】・詳細は添付ファイルの通りです。**

1. セメント生産におけるネットCO<sub>2</sub>排出原単位（※1）の削減

（1）長期的なゴール：2050年における80%（※2）削減

（2）削減シナリオ

技術と実用化の可能性等に鑑みて、以下の3つの削減シナリオを策定

①「**応用**」：既存技術の最大活用 ⇒2050年に15%以上（※2）削減

具体的施策

省エネ設備導入

化石エネルギー代替の推進

現行規格内での低CO<sub>2</sub>セメントの設計 他

②「**発展**」：「応用」の施策に加えて、現在開発中の新規技術の導入

⇒2050年に30%以上（※2）削減

具体的施策

低CO<sub>2</sub>エネルギー活用

新規技術での更なる化石エネルギー代替の推進

規格改正を見据えた新規低CO<sub>2</sub>セメントの設計・開発 他

③「**革新**」：「応用」・「発展」の施策に加えて、今後開発が見込まれる革新技術の導入

⇒2050年に80%（※2）削減

具体的施策

回収CO<sub>2</sub>から製造したエネルギー活用

新規材料を活用した低CO<sub>2</sub>セメントの設計・開発

セメントキルンに適したCO<sub>2</sub>回収、カーボンリサイクル、貯留 他

2. セメント及びセメント関連製品のバリューチェーン全体を通じた様々なCO<sub>2</sub>削減への貢献（※3）

⇒2050年における20%（※2）に相当するCO<sub>2</sub>削減貢献が長期的なゴール

※1 ネットCO<sub>2</sub>排出原単位：化石エネルギー代替由来の排出CO<sub>2</sub>を除くセメント1トン当たりのCO<sub>2</sub>排出原単位  
(kg-CO<sub>2</sub>/t-セメント)

※2 2000年における当社グループのセメント生産に係るネットCO<sub>2</sub>排出原単位を100%とする。

※3 当社は2019年に、セメント関連製品によるCO<sub>2</sub>削減貢献量を算定するためのプロトコルを策定。